



世界遺産
目指す

佐渡を巡る旅

目次

- 2~3ページ 世界に誇る歴史的遺産
佐渡鉱山の概要・歴史
三浦基裕・佐渡市長 ごあいさつ
- 4~5ページ 佐渡鉱山ツアー&観光スポット
- 6ページ 食とお酒のスポット
- 7ページ 宿泊スポット 佐渡の温泉・新しい宿泊の形
- 8ページ 佐渡エリアマップ&アクセス
東北電力佐渡営業所の地域に寄り添う取り組み

新潟県と佐渡市は、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を2019年に世界遺産に登録することを目指して活動を続けている。世界遺産登録の構成資産は、西三川砂金山、鶴子銀山、相川金銀山などを含む7遺跡。

本特集では、400年以上にわたり採掘を続け、明治以降日本の近代産業の発展に貢献した「佐渡鉱山」の歴史を紐解くとともに、鉱山ツアーのほか佐渡の豊かな自然や文化、食や温泉などの観光スポットも紹介する。ぜひ佐渡を訪れ、その魅力を体感してほしい。

右上=トキ / 左上=佐渡の棚田と夕陽 / 中央=北沢浮遊選鉱場 / 右下=京町通りの宵乃舞 / 左下=矢島・経島のたらい舟

世界に誇る歴史的遺産 佐渡鉱山

～歴史と概要～

日本の近代産業発展を牽引

佐渡は平安時代から砂金が採れる島として知られ、安土桃山時代には、鶴子銀山が開発された。やがて相川に金銀山が発見されると、佐渡は江戸幕府の直轄地とされ、金銀の採掘が行われた。以降、産出量が落ち込んだ時期もあったが、佐渡の金銀は幕府の財政を支え続けた。

指して共同で調査研究を実施してきた。2010年、「金を中心とする佐渡鉱山の遺跡群」の名称で、ユネスコの世界遺産暫定リストに記載された。現在は世界遺産登録の早期実現と、将来への価値継承を目指し、官民一体となって運動を展開している。

明治を迎えて官営の「佐渡鉱山」となり、宮内省御料局への移管を経て、民間の三菱合資会社へ払い下げられた。この間、明治から昭和にかけて、大立堅坑を始めとする垂直坑道の開削、捲揚機の導入、鉱石や石炭の運搬に使われた日本初の空中ケーブルの設置、浮遊選鉱場の建設など、最新の技術や施設により日本の近代鉱業の発展を牽引した。また北沢火力発電所など鉱山のための発電所も建設され、後に佐渡島内の電気供給に転用されている。世界遺産の構成資産にもなっている戸地川第二水力発電所には、今も当時のままの設備が残されている。

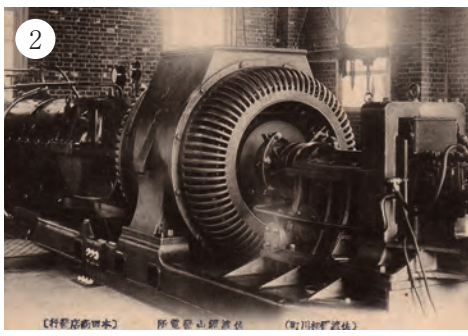
**佐渡鉱山の
世界遺産としての価値**

- 400年にわたる金生産技術の発展の歴史を体系的に示す産業遺跡群
- 金生産を支えた人々により成立・変遷した鉱山集落や鉱山町がまとも存在
- 人類の金獲得の歴史において、金生産技術とそれを担った社会の発展の歴史を示す、世界で唯一の文化遺産

2006年から、新潟県と佐渡市は佐渡鉱山の世界遺産登録を目指す。2006年から、新潟県と佐渡市は佐渡鉱山の世界遺産登録を目指す。

- ①明治41年、採掘用の電源として建設された北沢火力発電所。写真上部に見えるのが空中ケーブル。明治中期から昭和初期まで、鉱石や石炭の運搬に使われた(明治41～昭和10年頃撮影、相川郷土博物館所蔵)
- ②北沢火力発電所のタービン。(明治41年～大正期撮影、相川郷土博物館所蔵)
- ③水量の豊富な戸地川流域に建造された戸地川第二水力発電所。1919年～77年まで電力を供給。

相川金銀山のシンボル、道遊の割戸



ごあいさつ

佐渡は、四季折々の美しい自然に加え、輝かしい歴史と文化を誇る島です。特に佐渡金銀山の歴史は古く、17世紀からの400年間に金78トン、銀2,330トンを生産し、日本最大の金銀山として、国内外の経済に影響をあたえ、世界の歴史の上に大きな足跡を残しました。明治時代以降、佐渡金銀山は国営となり、西洋の技術を取り入れて技術革新を行い、近代的な鉱山に生まれ変わりました。その後、鉱山は皇室財産を経て民間に払い下げられ、平成元年まで金銀山としての命脈を保ってきました。

このように、時代によって変化した金銀生産に関する建造物が良好な状態で残されていることも佐渡金銀山遺跡の大きな特徴の一つです。また、佐渡は「芸能の宝庫」といわれ、今もなお、江戸時代に全国から伝えられた民俗芸能が数多く残されています。

佐渡市では、このような歴史的・文化的資産を「世界文化遺産」に登録し、佐渡金銀山の保全活動を進めるとともに、未来に継承していきたいと考えております。

島内では、時代を経た現在でも、佐渡金銀山の歴史と文化をいたるところで感じることができ、是非、佐渡にお越しいただき、佐渡の魅力を感じていただきたいと思います。



佐渡市長 三浦 基裕氏

3 世界遺産目指す 佐渡を巡る旅

知るほど深まる 鉱山の価値

400年以上も採掘が続いた鉱山は他に類を見ず、江戸・明治・大正・昭和と各時代の最先端技術が導入されている。勉強するほどに、佐渡鉱山がとてつもない価値ある鉱山であることがわかり、また、先人の苦勞もわかってくる。江戸時代には、これまでなかった組織的労働、分業体制が敷かれた。そのおかげで以後の技術導入もスムーズに進んだ。日本の近代化の原点として見直すと価値は高い。佐渡鉱山には島外から働きに来ていた人が多く、民間の住宅を購入したり、借りて住んだりしていた。京町通りの街並みは江戸時代以来のもので、繁栄の歴史を物語る。

このように、佐渡鉱山は時系列を追ってストーリーがわかればそのすごさが理解できる場所だ。とりわけ、日本の産業史

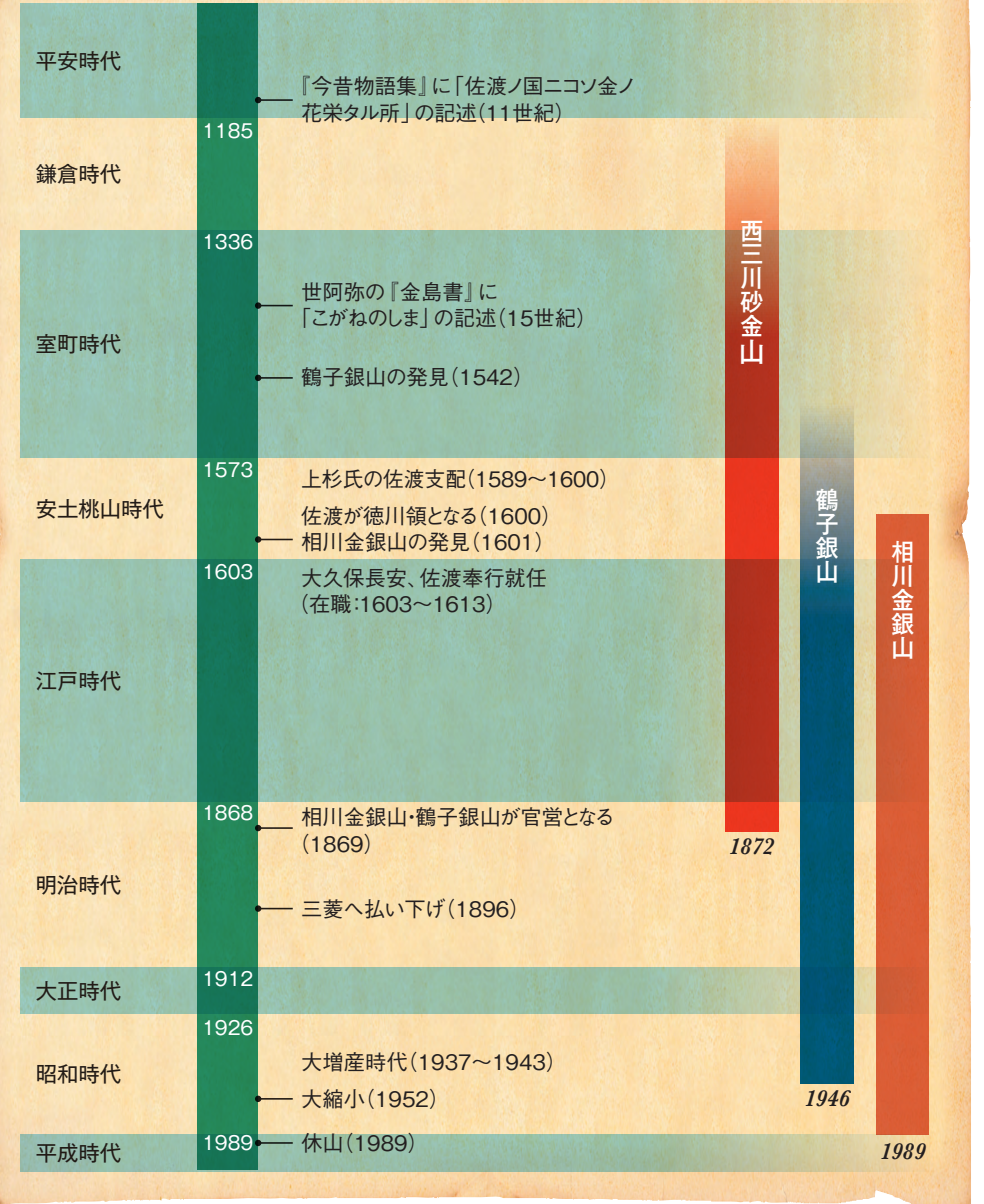


(一社)佐渡を世界遺産にする会
永松 武彦 副会長

でみれば明治期から昭和期は重要といえる。当時の技術者は西洋の論文をよく勉強していた上、土木構造物や鉄道もすべてが最新技術だった。大増産前に使われた鉱石を運ぶ空中ケーブルも国内初の導入。トロツコのほか、蒸気や電気機関車による運搬も導入した。花崗岩の砂に石灰を混ぜ強度を高めるたき工法を採用して築港した大間港は土木遺産にも認定されている。

このように佐渡鉱山は世界遺産にふさわしい材料をそろえている。江戸時代の佐渡鉱山の採掘の様子を記した絵巻も残っている。西洋には産業革命以前の資料は残っておらず、産業遺産としての資料価値も高いはずだ。資源大国だった近代日本の大切な遺産として残していきたい。

◆佐渡鉱山の年表



佐渡鉱山発展に貢献した人々

歴史上の人物

◆大久保長安 (おおくぼながやす 1545~1613)
大久保長安は、1603年に徳川家康により佐渡代官(のちの奉行)に任命された。それ以前は石見銀山(島根県)を経営しており、佐渡代官就任の翌年、石見から役人や技術者を引き連れて来島した。長安は、相川金銀山の開発と経営に力を注ぐ一方、鉱山と陣屋(のちの奉行所)を結び計画的な町割りを行い、鉱山都市相川の骨格を形成した。



大久保長安像

◆荻原重秀 (おぎわらしげひで 生年不詳~1713)
1690年に幕府勘定吟味役より佐渡奉行に任ぜられた荻原重秀は、当時生産量が落ち込んでいた佐渡鉱山を再生させるために、翌1691年に佐渡へと渡航した。現地で、鉱山の状況を調べ上げた重秀は、坑内に溜まった地下水を排出するための排水坑を掘削することを決め、幕府からの莫大な資金を投じて「南沢疏水道」を完成させた。これにより佐渡鉱山は生産量が回復し、再び活況を呈することになった。

◆大島高任 (おしまたかとう 1826~1901)
1885年に佐渡鉱山局長に就任した大島高任は幕末の頃から活躍した鉱山技術者で、ドイツのフライベルク鉱山学校に留学した後、国内の鉱業界をリードした人物である。佐渡鉱山では、坑道の掘削や大間港の整備、新製鉱場の建設などを次々に計画施工して金銀の算出量を増大させた。1889年、佐渡鉱山が宮内省御料局に移管されるのを期に辞任した。

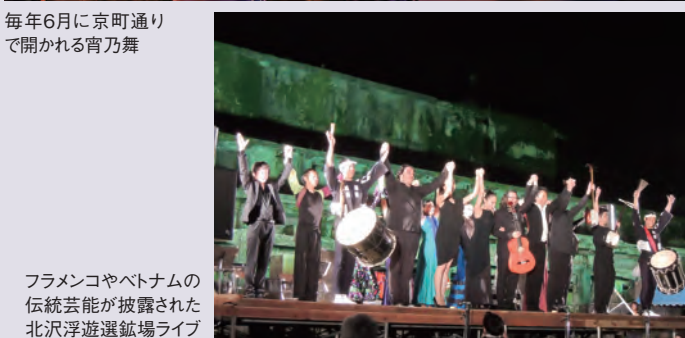
佐渡で楽しむ文化・芸能

世界遺産向けイベントも

佐渡・相川では風情ある伝統芸能を楽しむ。毎年6月に京町通りで開かれる「宵乃舞」は必見。通りの両脇に並ぶぼんぼりに照らされた踊り手たちが、相川音頭に合わせて踊り、幻想的な雰囲気をつくりだす。同じ夜間のイベントといえば、昨年8月に開かれた世界遺産登録を推進するイベント「ともに目指そう、世界遺産! 佐渡金銀山遺跡@北沢浮遊選鉱場ライブ」も盛況。ライトアップされた北沢浮遊選鉱場をバックに、フラメンコやベトナムの伝統音楽などが披露された。今年7月29日に開催予定だ。



毎年6月に京町通りで開かれる宵乃舞



フラメンコやベトナムの伝統芸能が披露された北沢浮遊選鉱場ライブ

世界遺産登録 動画で応援

新潟県教育庁世界遺産登録推進室は、佐渡の世界遺産登録に向けたプロモーション活動として、動画配信サイト「YouTube」で佐渡鉱山の遺産群に関する映像を配信している。また、世界遺産登録への機運を高め、県民の盛り上げを国内外へアピールする応援ソング・ダンス「佐渡は世界の宝島~World Treasure Island SADO~」も制作し、こちらも配信 중이다。この動画には、地元新潟・古町生まれの4人組アイドルユニット「RYUTist」(リュートイスト)が出演。県内各地で県民とともにダンスを披露している。



URL: <https://www.youtube.com/channel/UCqIHGtY-uzpFPPIbCgGT3xA>

私のご案内します

宿根木ガイド
渡辺 南風さん

宿根木は江戸時代に栄えた港町の町並みを残す集落です。木造の民家100余棟が密集しており、土地に合わせて建てられた三角家など、当時の船大工の技術が多くみられます。千石船を所有していた廻船主の屋敷「清九郎」は当時最高水準の木材や技術が使われています。現在は公開民家として見学可能です。千石船の船頭の屋敷「伊三郎」は、現在、一日一組限定の宿として営業しています。宿根木公会堂は、芝居小屋として今も多く行事に活用されています。



船木工の技が見られる三角家



A 宿根木集落

しゆくねざしゅうらく

北前船で繁栄 光る匠の技

小木港から車で約10分、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている宿根木集落。京都などと交流した北前船の造船や廻船業で繁栄した地区であり、今も残る屋敷などの家屋に、その栄華と建築・造船技術を垣間見ることが

できる。船大工の技を生かして三角形の土地に建てられた三角家、住民の信仰を集める称光寺から世捨小路へと続く町並み、千石船による交易の跡がうかがえる石材の数々が、集落の味わい深い雰囲気を出している。



江戸時代後期から明治にかけて財を成した廻船主の邸宅「清九郎」は当時最高水準の木材や技術が使われています。現在は公開民家として見学可能です。千石船の船頭の屋敷「伊三郎」は、現在、一日一組限定の宿として営業しています。宿根木公会堂は、芝居小屋として今も多く行事に活用されています。



宿泊可能な「伊三郎」、いろいろ付きの居間。タイムスリップしたような感覚だ



佐渡国小木民俗博物館に展示された北前船の復元船「白山丸」



芝居小屋形式の宿根木公会堂で春に行われる和太鼓集団「鼓童」の公演(写真提供:公財)鼓童文化財団

歴史をたどる

佐渡鉱山ツアー & 観光スポット

世界遺産登録を目指す佐渡鉱山の遺産群の中でも、江戸時代から平成元年まで400年以上にわたって採掘されてきた相川金銀山は日本最大の規模。ここで掘り出された金は78ト、銀2330ト、その他の鉱石は1500万トに及ぶ。特筆すべきは、それぞれの時代の遺構がそのまま残り、鉱山の歴史をたどっていくこと。また、鉱山の発展とともに栄えた町が時代を重ねて今も生き続けていることを確認できる類を見ない場所だ。歴史を知り尽くす石川喜美子さんのガイドで、相川金銀山を

中心に佐渡鉱山の遺産の一部を紹介する。また、佐渡はほかにも後世に残すべき様々な遺産認定を受けている。2011年6月には、「トキと共生する佐渡の里山」として世界農業遺産(GIAHS)に登録。13年9月には10カ所のジオサイトがある日本ジオパークの認定を受けた。この佐渡に冠たる3つの遺産を「3資産」と呼ぶ。島を巡ることで、大自然が作り出した景観や生態系、人間生活の営みを知ることができる。テーマを絞って観光するのも面白い。

佐渡鉱山ルートマップ



佐渡鉱山ツアー

2 宗太夫坑 そうたゆうこう

江戸の技術 伝える坑道

昭和45年に開設された江戸時代の坑道の様子を伝える観光坑道。当時の採掘の特徴である将棋の駒形の坑道、鉱脈を探る小さな狸穴、空気を入れる煙穴などを見ることが出来る。当時の様子を人形で再現。地下水を抜き出す人力のポンプで、後に農業に転用される「水上輪」(すいしゅうりん)なども設置してある。国内鉱山観光の先駆けとして今も多く観光客が訪れる。



4 間ノ山搗鉱場跡 あいのやまどうこうばあと

低品位の鉱石から金銀を回収

搗鉱場とは、鉱石を粉砕し、水銀を使って金を取り出すための工場のこと。水銀と金の合金(アマルガム)として回収した。明治24年に操業を開始し、含有量の低い低品位の鉱石から金銀を回収した。宮内省御料局から三菱合資会社に払い下げとなった後、低品位鉱の増加に伴い第三搗鉱場まで増強されていった。現在も間ノ山搗鉱場の遺構が残されている。



1 大立堅坑 おおたてたてこう

金属鉱山で国内初 垂直坑道

江戸時代には人力で運び出されていた鉱石。採掘量を増やすために導入されたのが、明治時代に掘削された大立堅坑だ。金属鉱山で国内初の立坑(垂直坑道)とされ、当初は深さ約152mで完成。昭和の初めには最終深度約352mに達した。戦前の大増産期、地上には高さ15mのやぐらを建設し、立坑も拡張。採掘を休止した平成元年まで使用された。100馬力の捲揚機、削岩機等の動力源である200馬力のコンプレッサーは今も構内に現存する。



3 道遊の割戸 どうゆうのわりと

歴史刻む 鉱山のシンボル

相川金銀山のシンボルとなっている、V字型に掘られた採掘跡。同金銀山で幅35mと最も厚い鉱脈(道遊脈)があったが、鉱脈が硬く含有量も低かったため、江戸時代は山頂部で風化作用により濃集された金銀を掘っていた。明治時代以降、掘った鉱石は直下に掘られた道遊坑に落とされ、トロッコで搬出した。



C 大野亀 おおのがめ

初夏に咲き誇る 花の楽園

佐渡島北端に突き出た大野亀は海拔167mの巨大な一枚岩。5月下旬から6月中旬の初夏、ユリ科のトビシマカンゾウの大群生が黄色い花を一斉に開かせる。山形県飛鳥と佐渡島にしか生息しない断崖などに咲く花。その数は50万株、100万本とされ、この季節の大野亀は絶好のロケーションを誇る。佐渡は列島南北の植物が入り乱れる花の楽園でもある。



初夏にトビシマカンゾウが咲き誇る大野亀

B 佐渡の能 さどりのう

世阿弥が伝えた 貴族文化

佐渡は能の大成者・世阿弥が流された地であり、古くから能とゆかりが深い場所。江戸時代以降は、初代佐渡奉行大久保長安が能を定着させたといわれ、佐渡の能は武士から農民まで広く行われてきた。春先には神社への定例奉納能、6月には薪能月間として多くの舞台を鑑賞できる。椎崎諏訪神社では、能舞台での指導、能・仕舞体験も行われている。



椎崎諏訪神社の能舞台上で行われる天領佐渡両津薪能

E たらい舟 たらいぶね

佐渡の名物 体験しよう

ワカメやアワビ、サザエなどを獲る「磯ねぎ漁」のために考案されたたらい舟。洗濯桶を改良したのが始まりとされ、安定感があり小回りがきくのが特徴。入り組んだ岩礁のある小木港や矢島・経島、宿根木で体験乗船ができ、うまく操ればたらい舟操縦士免許ももらえる。船頭さんが同乗し、ごき方を教えてくれるので安心だ。



小木港力屋観光汽船で楽しめるたらい舟。矢島・経島、宿根木でも体験可能

D トキの森公園 ときのもりこうえん

島のシンボル 共に生きる

1990年代から人工繁殖が進み、放鳥数も徐々に増えている特別天然記念物のトキ。放鳥トキもよく見られる新穂地区トキの森公園では、隣接するトキ保護センターで飼育するトキを見たり、資料展示館で保護増殖・野生復帰の取り組みについて学んだりできる。トキふれあいプラザは大型ケージを備え、より自然に近い環境で生活するトキの生態を観察できる。



トキの生態を間近に確認できる園内の「トキふれあいプラザ」

私のご案内します

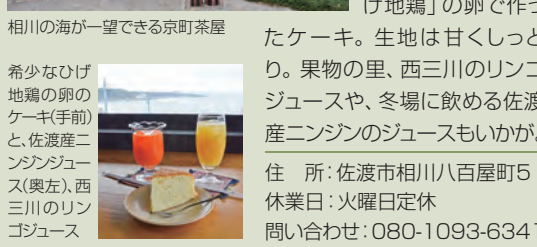
佐渡金銀山ガイド
石川 喜美子さん



大正期の鉱山を知る地元の方にヒアリングした時、鉱山の仕事に誇りを持った生き方を全うした方がいることを知りました。また、佐渡の金銀があったからこそ、これまでの日本の繁栄があります。ガイドとして佐渡鉱山の歴史や遺産価値を伝えることが役目だと思っています。

ちよっと一息 京町茶屋 きょうまちちや

古民家改装 面影を残す 相川の町を見下ろす高台に建つ茶屋。かつて豆腐屋だった店舗を改装。おすすめは佐渡でしか手に入らない「ひげ地鶏」の卵で作ったケーキ。生地は甘くしっとり。果物の里、西三川のリンゴジュースや、冬場に飲める佐渡産二シジムのジュースもいかが。住所:佐渡市相川八百屋町5 休業日:火曜日定休 問い合わせ:080-1093-6341



6 北沢浮遊選鉱場跡 きたざわふうせんこうばあと

巨大遺構 先進技術を導入

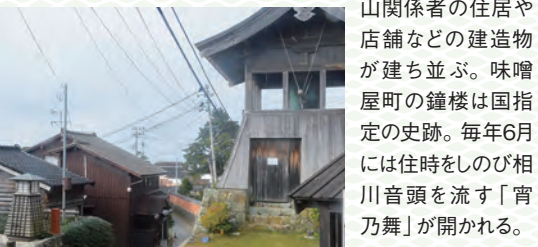
相川の町から鉱山へ向かうとき最初に見えるのがこの選鉱場。鉱石を粉砕して発泡剤の泡に硫化鉱物を付けて浮かせ、鉱物を濃縮する浮遊選鉱法を採用。この選鉱法は大正期から試験が行われ、昭和6年頃から本格的に採用した。昭和13年には大規模浮遊選鉱場を建設し、操業を開始。その後昭和16年まで増設工事が続いた。処理量は最大で1カ月5万ト。昭和27年の操業の縮小に伴い運転を停止。



8 京町通り きょうまちどおり

鉱山の繁栄 映す町並み

江戸幕府直轄地(天領)として慶長8年に築かれた佐渡奉行所から、鉱山へと至るまでの町並みを貫くメインストリート。金銀山の発展とともに人が集まり、繁栄してきた相川の町。職場と居住地が近接する鉱山は珍しい。江戸時代の道幅そのままに、山関係者の住居や店舗などの建造物が立ち並ぶ。味噌屋町の鐘楼は国指定の史跡。毎年6月には住時をしのび相川音頭を流す「宵乃舞」が開かれる。



5 高任粗砕場 たかとうそさいば

鉱石を破碎 拠点

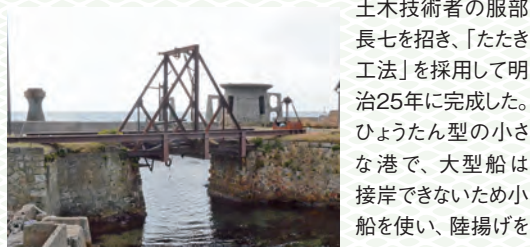
掘り出した鉱石を破碎する工場。昭和の大増産体制に伴い建設された。粗砕場の最上層に投入された鉱石は、ふるいに掛けられる。ふるいから落ちた低品位の鉱石は間ノ山搗鉱場へ、ふるいに残った鉱石は砕かれ、トロッコで北沢浮遊選鉱場へ運ばれた。操業開始は昭和13年。北沢浮遊選鉱場と同時に稼働し、大増産体制を築いた。選鉱場廃止後も操業は続き、平成元年の採掘休止まで稼働していた。



7 大間港 おまここう

鉱石積み出す 鉱山の玄関口

江戸時代、相川に陸揚げされる米や大豆などを取り扱っていた大間港。明治期から、鉱石の積み出し、鉱山用の資材や鉱山に電力を供給する火力発電の燃料(石炭)を陸揚げする港として利用された。築港工事は明治19年。東京から土木技術者の服部長七を招き、「たき工法」を採用して明治25年に完成した。ひょうたん型の小さな港で、大型船は接岸できないため小船を使い、陸揚げを行った。





長三郎店主の鶴間さん。抱えるのは佐渡産の寒ブリだ

鮭 長三郎

すし ちょうざぶろう

旬の海産物 安くおいしく

佐渡の海の幸をお手頃な値段で味わえるすし店。もとはラーメン店だったが、代表取締役の鶴間光男さんが東京のすし店で修行し開業した。ネタはほとんど佐渡産。売り出し中の佐渡天然ブリかつ丼(1,250円)は肉厚ながら柔らかくジューシー。冬場なら脂の乗った寒ブリ丼がおすすめ。佐渡の鮭おまかせ握り(2,800円)で旬が楽しめる。

住所：佐渡市新穂81-4
休業日：第1・3・5日曜日、第2・4月曜日
問い合わせ：0259-22-2125



佐渡の一押し「ブリかつ丼」の定食



長三郎のおまかせ握り



鮭 長三郎の外観

おすすめグルメ

佐渡の食とお酒のスポット

佐渡は豊かな食の宝庫。季節に応じて近海でとれる海産物や島内で育った農畜産物を楽しむことができる。また、湧水と米に恵まれた名酒の産地でもある。世界農業遺産(GIAHS)に日本で初めて登録され、自然との共生を図りながら豊かな農業文化を育む佐渡。地産地消による食料自給率向上にも取り組んでいる。鉱山を中心とした佐渡の自然や文化とともに食の面からも佐渡を堪能してほしい。

録され、自然との共生を図りながら豊かな農業文化を育む佐渡。地産地消による食料自給率向上にも取り組んでいる。鉱山を中心とした佐渡の自然や文化とともに食の面からも佐渡を堪能してほしい。

代表取締役 鶴間 光男さん

佐渡の味、飾らぬ雰囲気

創業は60年以上前になります。佐渡の旬であれば、春はサワラ、4～5月はマダイにヒラメ、5月にはトビウオと続きます。冬はブリやイカ、ボタンエビ、アマエビ、サバ、アワビ、パイ貝、アンコウなど。カワハギもおいしいですね。年4回、旬のものを食べに佐渡へいらっしゃる方もおられます。東京では高価になりがちですが、うちでは鮮度がよく、おいしい魚を安く、飾らない雰囲気ですし上げられます。ぜひご来店を。

回転すしや まるい

かいてんすし すしや まるいし

水産会社直送 豊富なネタ

佐渡の海産物を扱う石原水産直営の回転すし「すしやまるい」も、お客の絶えない人気店の一つ。石原水産から直送されるネタの豊富さと手頃な値段が売りだ。店舗は佐渡市泉の本店と両津店の2つ。3点盛りでマグロを食べ尽くすもよし、ノドグロの脂を堪能するもよし。たっぷり味わおう。

住所：佐渡市泉1031-1(本店)
営業時間：11:00～21:00
休業日：木曜日定休
問い合わせ：0259-63-3066



注文したすし。1皿390円のノドグロのほか、寒ブリ、カワハギ、カンパチなども



まるいの外観

持田家・古民家食堂&カフェ&居酒屋

もちだや・こみんかしょくどう&かふえ&いざかや

鮮魚店直結 民家を改装

相川・天領通りにある持田鮮魚店。空き家となった隣家を改修し、鮮魚店の食材を生かした定食や居酒屋、カフェとして2015年春にオープンした。かつて鮮魚店で仕出しも行ってたこともあり、料理を出す素地があった。世界遺産登録に向けて昔の様子そのままに復元。築60年以上、昭和の民家の雰囲気が残る。佐渡の魚を食べてほしい、その一心で作られる定食はボリュームたっぷり。食材も毎日変わり、佐渡の海の豊かさを感じられる。

住所：佐渡市相川一丁目7
営業時間：昼の部11:00～14:00
夜の部18:00～23:00
休業日：月曜日定休
問い合わせ：0259-67-7268



家のようにくつろげる店内



ミックスフライ定食



看板の海鮮丼



刺身と天ぷらの定食

佐渡島内の酒。左から、天領酒造「天領酒」/北雪酒造「北雪」/逸見酒造「真稜」/加藤酒造店「金鶴」/尾畑酒造「真野鶴」



豊かな土地と名水に囲まれた佐渡の酒。淡麗辛口の飲み口はファンが多く、国内外で評価も高い。国際線の機内酒に採用されたり、海外のレストランで人気の酒もある。見学可能な酒蔵もあるので確認を。

- + 尾畑酒造(おはたしゅぞう) 0259-55-3171
- + 天領酒造(てんりょうはいしゅぞう) 0259-23-2111 ※酒蔵見学可(要事前予約)
- + 逸見酒造(へんみしゅぞう) 0259-55-2046 ※酒蔵見学可(要事前予約)
- + 北雪酒造(ほくせつしゅぞう) 0259-87-3105 ※酒蔵見学可(要事前予約)

島内の蔵元

国内外で評価ファン多く



「金鶴」のラベルが貼られた製品

試飲もできる加藤酒造店の店舗。社長の奥さん(右)と息子さんの奥さんが切り盛り

創業100年超え 挑戦続く

佐渡には5つの酒蔵があるが、「金鶴」の加藤酒造店は、全生産量のうち約7割を島内へ出荷しており、地元で支持されている酒蔵だ。創業は大正4年、平成27年に100周年を迎えた。良質の軟水を求め、平成5年に内陸部の金井地区新保にあった廃業していた蔵へ移転。最新設備を採り入れつつ、杉材を使った麹室も新たに建造し、麹作りも手作りにこだわっている。「Made with Sado」を掲げ、地元産の米と水による地酒づくりを目指している。

住所：佐渡市沢根炭屋町50(店舗)
問い合わせ：0259-52-6511



加藤酒造店の外観

佐渡八幡温泉 **国際佐渡観光ホテル 八幡館**
こくさいさどかんこうほてる やはたかん



皇室もご宿泊された 島随一の温泉

佐和田地区八幡の広大な松林庭園の中に建つ、皇室ゆかりの宿。昭和天皇皇后両陛下、秋篠宮文仁親王同妃両殿下、高円宮親王妃久子殿下がご宿泊されている。1階にある八幡温泉の大浴場は佐渡随一の湯量で、泉質は滑らか。松林に囲まれた露天風呂に癒やされる。

住所：佐渡市八幡2043 問い合わせ：0259-57-2141

松林に囲まれた八幡館の露天風呂



八幡館の豪華な夕食



八幡館の外観

おすすめの宿

佐渡は各地に温泉が湧き、地元の食材を使用した料理を
 楽しめる宿が多い。日本海や加茂湖に面し、絶景を満喫で
 きる温泉・客室もある。由緒ある観光ホテルや景観の素晴

佐渡の宿泊スポット

らしい宿、ペンション、民宿などバリエーションも豊富。小グ
 ループで自由な過ごし方ができる新たな形式の宿も生まれ
 た。伝統ある温泉宿とニュータイプの宿を紹介する。

佐渡加茂湖温泉 **湖畔の宿 吉田家**
こはんのやど よしだや

屋上風呂 湖や山を一望



加茂湖を見下ろし、遠方に金北山を望む吉田家の屋上露天風呂

両津港に面し、カキの養殖も行われる汽水湖の加茂湖。その湖畔に建つのが吉田家だ。料理屋から宿屋に転じたのは江戸・安政期。屋上露天風呂から加茂湖を見渡せるほか、両津港や島内最高峰の金北山など、雄大な風景を満喫できる。自家製イカの塩辛も自慢だ。



加茂湖のほとりに建つ吉田家

住所：佐渡市両津夷261-1 問い合わせ：0259-27-2151

大佐渡温泉 **ホテル大佐渡**
ほてるおおさど

日本海の大パノラマ独占



日本海の大パノラマが広がるホテル大佐渡の露天風呂

美しい夕日が見られるスポットとして知られる春日崎。そのすぐ近くの高台に建ち、見渡す限りに日本海が広がる絶景の宿。露天風呂から見える大海原の景色は壮観だ。各階層の客室からも絶好のロケーションを楽しめる。内湯の大浴場、サウナも完備。



ホテル大佐渡の正面入口

住所：佐渡市相川鹿伏288-2 問い合わせ：0259-74-3300

新しい宿泊の形



キッチンも備え、自由にくつろげる2階のラウンジ

Guest Villa on the 美一 げすとういら・おんざびいち

住所：佐渡市河原田諏訪町207-76 問い合わせ：0259-58-7077

真野湾臨む くつろぎの家

2015年にオープンした、真野湾の広大なパノラマに面するゲストハウス。5室の寝室以外に、広々とくつろげるラウンジやキッチン、シャワールームを備える。寝室はセレクトショップ「minka」の寝具やリネン類などをそろえ、快適な宿泊を提供する。1棟丸ごと借りることもでき(5万円)、家族や友人の小グループで自由な時間を過ごせる。運動や勉強会などに使えるファンクションホールが1階にある。



真野湾沿いに建つ「on the 美一」。1階が「レストラン SEISUKE Next door」

旅の拠点、別荘代わりに

元は横浜出身でホテルに勤めていましたが、実家がいごねり(海藻加工食品)屋の妻と、第1子とともに16年前に佐渡へ移住しました。妻の両親が建てた家で始めたゲストハウスでの経験を元に、もともと購入していた物件を使い、夫婦で「on the 美一」を企画しました。計画中にシェフの尾崎さんと知り合い、レストランの入居も決まりました。おいしく食べ、体を動かし、そして快適な眠りで休むのが一番です。佐渡は豊かな自然が豊富であり、人も良いです。従来のツアーではない観光手法も佐渡で出てきました。家族同士や仲間内など小グループで旅行の拠点とし、貸別荘代わりに使われることが多くなりました。ビジネスで来られた方も、セカンドハウスのように使ってください。



家主 山内 三信さん

レストラン SEISUKE Next door
れすとらん・せいすけねくすとどあ

佐渡産の食材ふんだんに

「on the 美一」の1階に入っているフレンチ・イタリアンレストランで、両津の隠れ家レストラン「Restaurant 清助」の2号店。佐渡産の豊かな食材で作る料理が魅力。シェフの尾崎邦彰さんは豪州でイタリアン3店舗を構えた確かな腕を持つ。佐渡産100%の料理を理想に「生産者と長く付き合い、一緒に食材を美味しくしていきたい」と語る。

問い合わせ：0259-58-7077 (on the 美一)



コース料理の一例。佐渡牛のローストと平目のポワレ・ホウレンソウのソース

アクセス

- 東京駅 → (上越新幹線 約2時間) → 新潟駅 → (バス、タクシー 約10~15分) → 新潟港
→ (佐渡汽船ジェットフォイル 1時間5分 / カーフェリー 2時間30分) → 両津港
- 東京駅 → (上越新幹線 約1時間50分) → 燕三条駅 → (JR越後線 約40分) → 寺泊駅
→ (バス・タクシー 約15~20分) → 寺泊港 → (佐渡汽船高速船「あいびす」 1時間5分) → 赤泊港
- 金沢駅 → (北陸新幹線 約1時間) → 上越妙高駅 → (えちごきめき鉄道妙高はなうまライン 約15分) → 直江津駅
→ (バス・タクシー 約10~20分) → 直江津港 → (佐渡汽船高速カーフェリー「あかね」 1時間40分) → 小木港

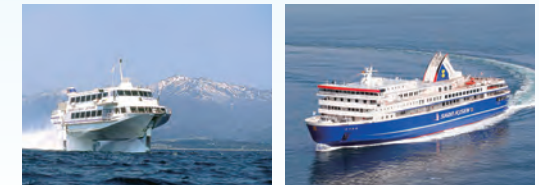
SADO MAP 佐渡マップ

- 佐渡鉱山
- 持田家・古民家食堂&カフェ&居酒屋
- ホテル大佐渡
- 回転すし すしや まるいし
- 加藤酒造店
- Guest Villa on the 美一
- レストラン SEISUKE Next door
- 国際佐渡観光ホテル 八幡館
- 逸見酒造
- 尾畑酒造
- 佐渡国小木民俗博物館 千石船展示館
- 宿根木集落
- たらい舟



佐渡汽船について

- 新潟港⇄両津港 (新潟市)
 - 超高速船ジェットフォイル 「つばさ」「ざんが」「すいせい」
 - カーフェリー 「ときわ丸」「おけさ丸」
- 寺泊港⇄赤泊港 (新潟県長岡市)
 - 高速船「あいびす」
- 直江津港⇄小木港 (新潟県上越市)
 - 高速カーフェリー「あかね」



新潟港~両津港を往復するジェットフォイル 車で移動ならカーフェリーで

東北電力佐渡営業所 地域に寄り添う取り組み

世界遺産登録など支援

東北電力佐渡営業所(和田健所長)では、同社のコーポレートスローガン「より、そう、ちから。」の下、「地域との双方向コミュニケーションの充実」を活動の柱に、佐渡鉱山の世界遺産登録に向けた支援活動や、地域の方々の対話や行事への参加に力を注いでいる。

具体的には、江戸時代に金を運搬した道の整備活動および当時の様子を再現して実際に歩く「御金荷おかね」の道ウォークや、佐渡鉱山に構成されている「鶴子(つるし)銀山」の清掃活動に参加するなど、世界遺産登録に向けた機運醸成の後押しを行っている。その他、「佐渡国際トライアスロン」開催前の街中清掃や、佐渡金山と佐渡奉行所を結んだ当時のメインストリートで佐渡市の民謡である相川音頭を踊る「宵乃舞」に参加するなど、地域と一緒になった活動を展開している。

また、佐渡島は本土の系統と電氣的に接続しておらず、電力需要を島内の火力・水力発電所にて賄っているという特殊な事情がある。このほか、離島における電気料金の制度や、日々の安定供給に向けた取り組みなどについて情報発信を行うため、地域の方々を火力発電所に招き、見学会に併せて説明を行うなど、地域に寄り添う活動を大切にしている。

- 江戸時代に金を運搬した道にて当時の様子を再現して歩く「御金荷の道ウォーク」に佐渡営業所員も参加
- 「御金荷の道ウォーク」開催前に、倒れた竹や木の除去、草刈りを行う「御金荷の道の整備活動」に参加
- 佐渡市立真野(まの)小学校の児童による相川火力発電所の見学会を実施